

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ルミナフレンズ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 13日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものことを十分に理解し、個別療育・小集団療育ともに専門性のある支援を行っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・PT、OT、STといった専門職のスタッフは在籍していないが、保育士を中心とした「遊びのプロ」が、子どもの発達段階に合わせた支援内容を検討し、実施することができる。 ・月に1～2回のOT、STの外部講師に依頼し、子どもの発達段階や支援する方向性を確認するために、実際の療育に入っていたり、評価をしてもらうことで、ルミナフレンズの療育内でできることを取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ個人の能力の向上を目的とし、療育や発達支援に関する研修等の情報を共有し、それぞれが自己研鑽する機会を提供する。 ・子ども1人1人の発達段階をスタッフ間で共有し、統一した支援方針を持って関わられるよう、日々の振り返りや個別支援計画の策定会議などを滞りなく行っていく。
2	日ごろから子どもの成長や発達の状況について保護者と共有し、共通理解ができるように努めていること	<ul style="list-style-type: none"> ・療育後のフィードバックの時間を充実させることで、日々のお子様の様子や帰属園(幼稚園、保育園等)での様子を保護者に共有していただいている。その際、子どもの成長を感じられた面についてはともに喜び、共感的な関わりを持つようになっている。 ・相談事や生活の中で困っていることなどがある場合には、お話を伺ったうえでアドバイスをしたり、スタッフ間で共有して話し合ったことをお伝えしたりして対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児の場合、就学前相談や発達検査、就学支援シートの内容など、移行支援が必要な保護者からの相談が特に多くなるため、どのスタッフも話を伺った際に状況が把握できるようにしていく。 ・フィードバックの時間だけでは足りない場合や、複数のスタッフで話を詳しく伺う方がよい場合には、事業所内相談支援を実施する日を作り、保護者が安心して相談できる状況を整えておく。
3	子どもが楽しく通える施設であること	<ul style="list-style-type: none"> ・ルミナフレンズの療育理念である「楽しく遊んできたが、いっぱいになって、みんなの笑顔があふれる施設」を全スタッフが心がけ、子どもの興味関心や遊びを通した成長を促す支援が浸透していると思われる。 ・見学、体験時にも、事前に伺った子どもの様子から、その子にあった環境設定と遊びを用意することで「楽しかった」「また遊びたい」と思えるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者が「楽しく遊べる」「安心して通える」と思えるように、安全面・衛生面に配慮した環境づくりや、教材の選定などに注力していく。 ・ルミナフレンズの利用が終了した際に、次のサービスへ向かう際の不安や相談ができればと声が上がっているため、終了後も安心して次のステージに送り出せるような支援を検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	十分な人員配置ができていないこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの利用人数が多い日にスタッフの人数を充てることで、他の曜日は少ない人数の勤務になることがある。加えて、スタッフの都合や体調不良によって人数が減ることがあり、それを鑑みると十分に人員を配置できていないと言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者が安心して通えるような体制を整えるため、シフトの調整やスタッフ人数に合わせた受け入れの調整等をしていく。 ・現在、新しいスタッフの求人を出しており、人材の確保に努めている。
2	地域の保育園・幼稚園との交流、地域に開かれた事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの来所がない時間帯や曜日を使って、地域住民の方を対象とした「親子広場」を企画したが、周知範囲が狭かったこともあり、参加者は施設の利用児と元利用児にとどまった。 ・保育園、幼稚園とは子どもの情報共有等で連携はしているが、活動をともにするような交流には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子広場については、元利用児(就学済)にも周知の幅を広げ、地域の広い範囲で交流ができる機会にすることを検討する。また、市や連絡協議会などと連携し、利用者以外に周知する手立てを考えていく。 ・利用者の中には、療育に通っていることを知られたくない方がいるため、交流をどこまで広げるのか慎重に検討する必要がある。
3	策定しているマニュアルや計画の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・更新されたマニュアルや運営規程、計画書などについては、玄関に設置している保護者閲覧用のファイルに格納されているが、その存在を知らない保護者が多くいる状況。 ・避難訓練や職員のみで実施している訓練は、報告書を公表していないため、訓練に参加した利用者のみが状況を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者閲覧用ファイルのことを改めて保護者全体に周知したうえで、各種マニュアルや計画書の概要をまとめたものを作り、おおまかにどのようなものがあるか理解を促していく。 ・訓練の様子を報告書だけでなく、SNSなどの媒体を通じて周知できるよう工夫する。